

補助事業番号 19-4

補助事業名 平成19年度産業高度情報化促進支援等補助事業

補助事業者名 社団法人日本情報システム・ユーザー協会

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

情報・通信技術をいかに企業経営の中に取り込み、活用していくかが、グローバル競争力強化の面から喫緊の課題となっているとの認識のもと、自社の経営課題とIT活用について検証することができ、あわせて埋もれている経営課題を発見することができるユーザー企業参加型のインタラクティブな情報交換の場（スクエア）を経営者層に提供し、また、ユーザー企業の情報活用推進上の課題を調査研究して、ユーザー要求に合致した課題解決のための要件を提供するなど、機械工業を含む産業の高度情報化の促進に寄与することを目的としている。さらに、19年度から、新たなステージとして、産学官との連携や、IT企業とのよりオープンな対話を目指し、機械工業を含む産業界を取り巻く広い高度情報化の促進に寄与することを目的としている。

(2) 具体的な実施内容・成果

①サマーステージ：

7月13日（金）、14日（土）の2日間、経団連ゲストハウス（御殿場）にて開催し、約100名の参加があった。オータムステージのディスカッションテーブルを見据え、ITユーザーの共通課題である、以下の4つのテーマ別にグループ討議を実施した。

「ビジネスイノベーションへの挑戦」

「アウトソーシング時代の組織の適正化とIT人材の育成」

「今取り組むべきBCP」

「ITグループ会社の人材育成」

②オータムステージ：JUASスクエア「ITガバナンス2007」

～ビジネスイノベーションへの挑戦～

9月12日（水）・13日（木）の2日間、JUASスクエア「ITガバナンス2007」を、経団連会館（東京・大手町）にて開催した。事前登録者数は645名、また2日間でのべ参加者数は1,004名となり、会員企業の全面的なバックアップにより成功裏に終えることができた。

「ビジネスイノベーションへの挑戦」をテーマに、基調講演、ユーザーとベンダーの経営者が異なる立場から議論するアサーションセッション（特別パネル）、CIO

パネルを実施した。

初日の基調講演は、旭テック株式会社 取締役共同会長（元本田技研工業 取締役副社長、元セガ・エンタープライゼス代表取締役社長）の入交 昭一郎氏を迎え、『「グローバル化」と「デジタル化」時代のオポチュニティとリスク』というテーマで講演をいただいた。

また、初日は2つのアサーションセッション（特別パネル）を実施した。

まず、『経営者から見る IT-イノベーションを産む活力ある組織づくりに向けてー』と題し、アサヒビール株式会社 常務取締役 本山 和夫 氏と、マイクロソフト株式会社 代表執行役 兼 COO 兼 ゼネラルビジネス担当 樋口 泰行 氏のパネルディスカッションを、さらに『電子マネー・電子決済で広がるイノベーションの世界』と題し、東日本旅客鉄道株式会社 常務取締役 IT・Suica 事業本部長 鉄道事業本部副本部長 小縣 方樹 氏と、株式会社NTT データ 取締役常務執行役員 荒田 和之 氏のパネルディスカッションを実施し、ビジネスイノベーションに関する討議を深めた。

2日目の基調講演には、『IT革命の新局面と課題—新たなる挑戦の意味』をテーマに、財団法人 日本総合研究所 会長、株式会社三井物産戦略研究所 所長、三井物産株式会社 常務執行役員、早稲田大学アジア太平洋研究センター客員教授の寺島 実郎 氏にお話をいただいた。

さらに、毎年好評の CIO パネルでは、『ビジネスイノベーションにおける” CIO”の役割』をテーマに、麒麟ビール、JTB、ローソンという、異なる業種の3名のCIOに討議いただいた。

また、ビジネスイノベーションにおける「新ビジネスモデル・商品・サービス創造・顧客確保・拡大」「業務プロセスの革新」について、あるいはビジネスイノベーションを支える「基盤としての組織と人材」「リスクへの対応」についての事例紹介とコンサルティングセッションを実施した。

さらに、参加型の公開討論会「ディスカッションテーブル」では、サマーで事前討議したテーマについて有意義な議論を実施できた。サマースクエアで事前に討議された論点、議長団を中心とした事前のミーティングにて検討された課題を討議するとともに、参加した方からも活発な意見が出て、充実したディスカッションが展開された。

プログラムの詳細は、下記を参照。

<http://www.juas.or.jp/j-square/itg2007/>

カンファレンス形式の情報提供を実施した結果、極めて大きな反響を得た。

特に、オータムステージは、これまでの実績と充実したプログラム構成により、600名を越す事前登録者があり、また、当日の来場者数も2日間合計で1000名に達

した（来場者数 2 日間合計 1,004 名：9 月 12 日：513 名、9 月 13 日：491 名）。

特に反響の大きかったプログラムは、公開討論会「ディスカッションテーブル」で、定員 150 名ほどの会場が満員になった回もあった。参加者の満足度も高く、ユーザーが自分達の意見を発する場として、本年度も一定の評価を得ている。

これに加えて、ユーザー企業の IT 責任者が自らの経験を踏まえて事例を講演するプログラム、および、アカデミーを含む専門家が、専門的見地から課題を整理・アドバイスするプログラムを複合して提供し、参加者からは高い評価を得ており、参加者アンケートでは 9 割以上が「知人、同僚に推薦したい」と回答している。

2. 事業実施効果

ビジネスイノベーションステージの開催事業

産業の競争力強化は個々の企業、産業の努力はもとより、企業間、産業間の連携や協同が必要である。

本事業を通じて、競争力強化に寄与する IT 活動に関してユーザーとベンダーとの連携と協同のあり方が示されたことにより、ユーザー、ベンダーともに今後の経営革新への多くの示唆を獲得した。

3. 本事業により作成した印刷物

ビジネスイノベーションステージの開催事業

- ・テキスト

4. 補助事業者連絡先

団体名	社団法人 <small>ニホン ジョウホウ システムユーザー キョウカイ</small> 日本情報システム・ユーザー協会
住所	〒103 - 0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-10-11
代表者	会長 <small>コウノ シュンジ</small> 河野 俊二
担当部署	事務局長
担当者名	三木 徹
電話番号	03-3249-4101
F A X	03-5645-8493
E-mail	miki@juas.or.jp
U R L	http://www.juas.or.jp

以上